











20200908 大阪大学SSI基幹プロジェクトシンポジウム 「一人ひとりの死生観と健康自律を支える超高齢社会の創生」活動報告と今後に向けて

拡大する図書館の価値 超高齢社会の中での緩やかな変革

山川みやえ 多世代・地域交流の図書館プロジェクト 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 公益財団法人浅香山病院 miyatabu@sahs.med.osaka-u.ac.jp

多職種多分野のコアメンバー

申 井上典子 京都市醍醐図書館

● 松原茂樹 大阪大学大学院工学研究科

● 浦部文子 堺市立中央図書館

● 山川みやえ 大阪大学大学院医学系研究科

小川敬之 京都橘大学健康科学部

● 釜江和恵 公益財団法人浅香山病院

● 河上崇陽 Dementia Friendly Japan Initiative/マルホ

● 川崎一平 京都橘大学健康科学部

● 澤谷晃子 大阪市立中央図書館

● 田中克博 精華町キャラバン・メイト連絡会

● 田中克明 Dementia Friendly Japan Initiative/コクヨ

● 永井邦明 京都橘大学健康科学部

● 中川百里香 堺市立西図書館

● 苗村昌世 大阪府立中央図書館

● 長谷部絵理 大阪市立中央図書館

● 舟田彰 川崎市立宮前図書館

松下太 森ノ宮医療大学保健医療学部

Nick Tyler University college of London

その他図書館、 行政メンバー 応援者多数

(関西) 多世代・地域交流の図書館プロジェクトとは

「多文化交流」「地域共生」を達成するために、 公共図書館を軸とした地域共生の 未来予想図をえがく

> 変わらない役割を持続するために 柔軟に変わっていく取組み

図書館の役割

【図書館法】

§ 2 「・・・「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設・・・」

→社会学習を促す機関

- 「公立図書館の任務と目標」 (抜粋) (日本図書館協会による定義)
 住民は・・図書館の活用によって・・・が達成できる
 - ●日常生活または仕事のために必要な情報・知識を得る。
 - ●関小のある分野について学習する。
 - ●政治的、社会的な問題などに対するさまざまな思想・見解に接し、自分の考えを決める糧にする。
 - ●自らの住む地域における行政・教育・文化・産業などの課題解決に役立つ資料に接し、情報を得る。
 - ●各自の趣味を伸ばし、生活にくつろぎとうるおいをもたらす。
 - ●子どもたちは、読書習慣を培い、本を読む楽しさを知り、想像力を豊かにする。
 - ●講演会・読書会・鑑賞会・展示会などに参加し、文化的な生活を楽しむ。
 - ●人との出会い、語りあい、交流が行われ、地域文化の創造に参画する。



多世代が集まる サードプレイス

図書館は赤ちゃんからお年寄りまで 誰でも利用できる!





世界的な高齢化の中での図書館の価値



香港の公共図書館



- 情報収集
- ・ 暇つぶし
- ・ 楽しい場所
- ワクワク
- 他人との交流
- 出会い(本/人)
- 問題解決
- 逃避場所

図書館は サードプレイスとして もっと機能できる

> 情報がある場所で複数の人が対話を行えるコミュニケーションの場 普段図書館に来ない人に対し、イベント等により興味のある場 ー「図書館」(仮称)リ・デザイン会議HPより



加速する超高齢化の中での緩やかな変革

その地域を見て何が地域や生活の課題なのか そこに応えられる図書館でありたい

高齢化率

28.4%

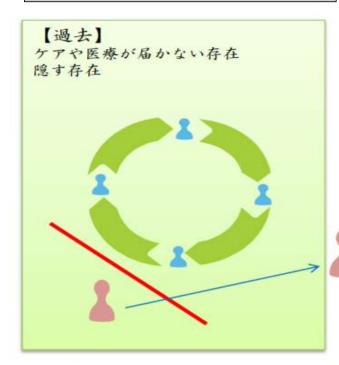
- 高齢者の利用も増加
- 認知症関係(本人・家族) も多い
- かかわり方、図書館のハブ機能の見直し
- 「認知症にやさしい」→「多世代に」

多世代が集まるサードプレイス

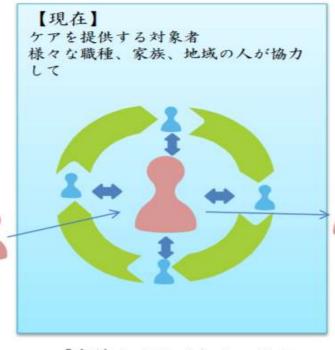
排除という 意識から



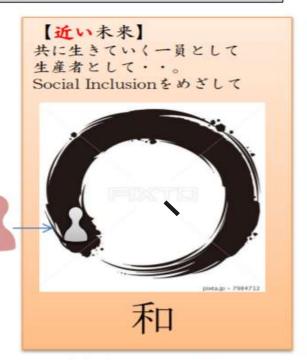
和(包摂) 共に生きていくという意識へ



「特別な人」という意識



「支援をするべき人、やさ しくする対象」という意識



「支援をするべき人」 という意識ではなく「しっか りとした理解のもと」社会の 一員という意識

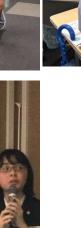
「認知症にやさしい」ではなく「認知症に理解の深い」と捉える。

認知症→高齢者→多世代の巻き込み







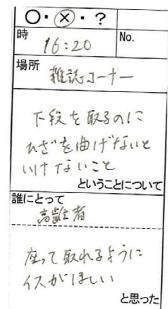


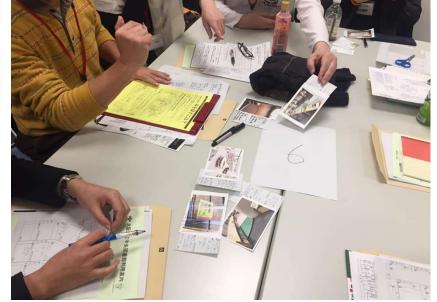


より良い図書館空間を作る「キャプション評価」

松原 茂樹 (大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻)



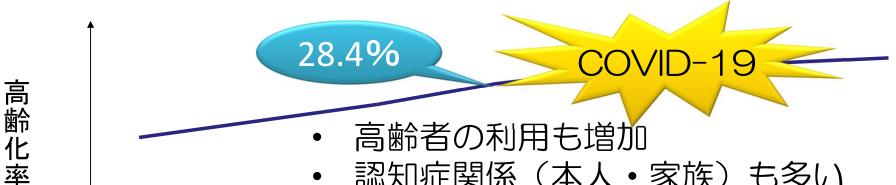




その「場所」がだれにとって使いにくいか、 使いやすいかを多面的に評価して改善案を考える

加速する超高齢化の中での緩やかな変革

その地域を見て何が地域や生活の課題なのか そこに応えられる図書館でありたい



多世代が集まる サードプレイス

- 認知症関係(本人・家族)も多い
- かかわり方、図書館のハブ機能の見直し
- 人の密集がリスク!!

コロナ禍の世界の図書館での公衆衛生的取り組み

- ドライブスルー、e-レンディング、e-ラーニング、遠隔教育のサポートなどの遠隔サービスを提供する計画を実施
- オランダ国立図書館:作家団体と提携して「画面上の作家」サービスを提供
- オーフス公立図書館:音楽クイズや作文コンクール、オンラインの詩の朗読 会、オンラインの宿題ヘルプ、公開討論会
- ・ ポルトガルの図書館:デンマークの図書館ではオンラインの「司書に聞こう」レファレンスサービスを立ち上げ子供向けのサービスを提供

高齢者へのリスクが…

COVID-19と世界の図書館界(COVID-19 and the Global Library Field https://www.ifla.org/covid-19-and-libraries



「対面」での図書館サービスの休止・縮小の中、どう いったサービスがあればいいなと思いますか? このグループのフォーラム等これまで積み上げてきた、高齢者なり認知症を取り巻く人々なり、多職種の方々との関わりの中での図書館にフォーカスして、図書館に何を望むか、どう使えるかが話せれば、、、、





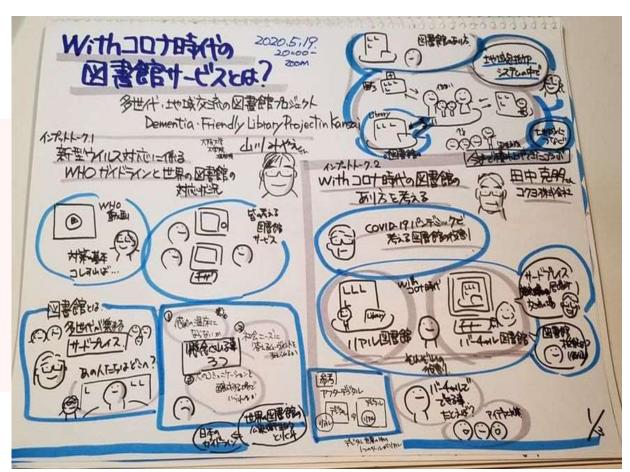


コロナ禍(2020年5月)での図書館オンラインフォーラムでわかったこと

「対面」での図書館サービスの 休止・縮小の中、どういった サービスがあればいい?

- > メール予約貸し出し
- > 出張貸し出し(移動図書館)
- > web 朗読会、読み聞かせ会
- ▶ 電子書籍やデジタルコンテンツの充実
- > バーチャル図書館でのセミナーなど

ぬくもりの感じられる 図書館サービス







の中でも図書館の価値を高める 取り組み

オンライン コンテンツの充実

感染予防を遵守した図書館

こんな時だから図書館の環境の見直し 堺市立西図書館とのコラボでのキャプション評価



オンラインでのキャプション評価ワークショップ

- 感染予防の知識
- 動画をオンラインでリアル タイムで視聴
- 気になるところをキャプション評価
- 改善案のディスカッション
- 改善案
- ・ 図書館へフィードバック

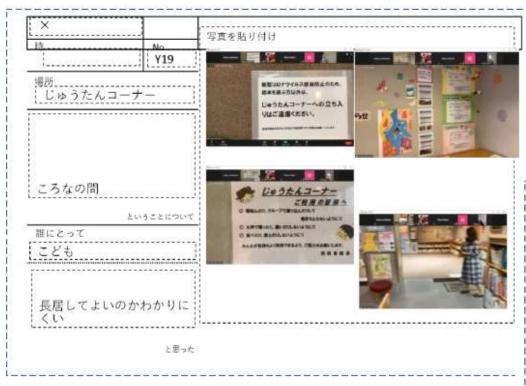






- ・短時間のみの利用
- 子供たちと保護者の 読書の場所
- 注意事項がわかりに くい
- ここで本を閲覧する 時の楽しい雰囲気も 大事にできたら





じゅうたんコーナーが 子供にとって、保護者にとって どんな空間になればよいか

例:分かりにくい表示





案:レジャーシートで「密の視覚化」×「ピクニック読書」

(あんない素案)

おねがいと3つの Check

check 1: マスクをしてますか?

^{ほん}
本はしずかにえらびましょう

【ここで本をよむとき】

こ みぐあい

check 3: レジャーシートをもってますか? ここで本を読みたいときは、 レジャーシートを敷いて、

その中で読みましょう。





COVID-19 でも

多世代交流のサードプレイスとしての図書館の役割

オンライン コンテンツの充実

国際シンポジウム

Feel connected through an ICT-based library service in the "social distancing" era

コロナ時代でも人肌を感じられる図書館サービスとは?

2020年12月19日18:00-21:00

UCL 都市デザイン教授 Nick Tyler 氏 Code for AIZU 代表 藤井靖史 氏

キャプション評価の報告も!

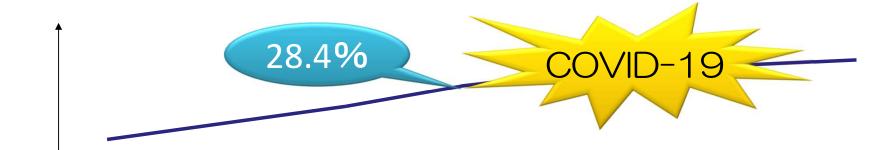
世界とつながって 考えよう ICTをベースにし た図書館サービス



超高齢化の中でもコロナ禍でも拡大する図書館の価値

その地域を見て何が地域や生活の課題なのか そこに応えられる図書館でありたい





多世代が集まり、学習できる サードプレイス

